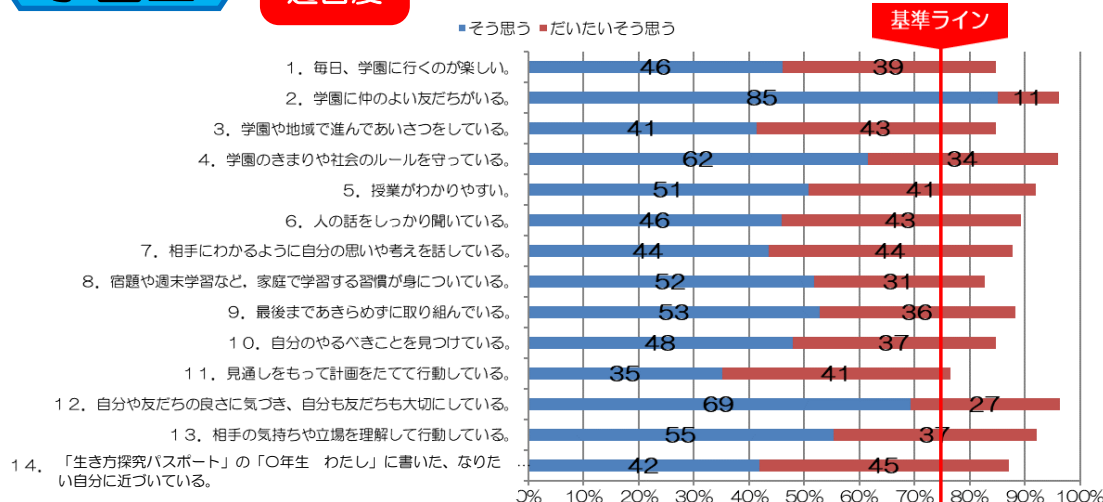


後期学園評価アンケート結果

令和6年
1月実施

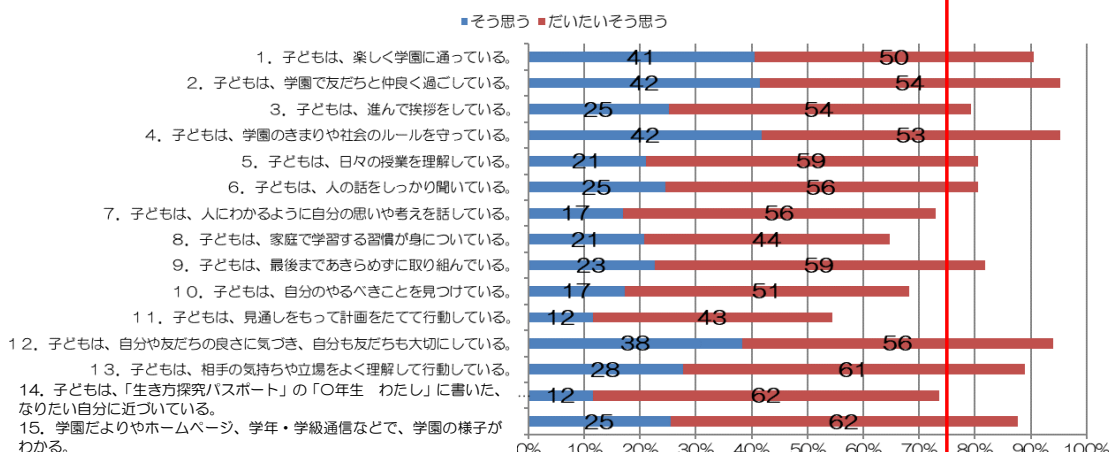
学園生

適合度



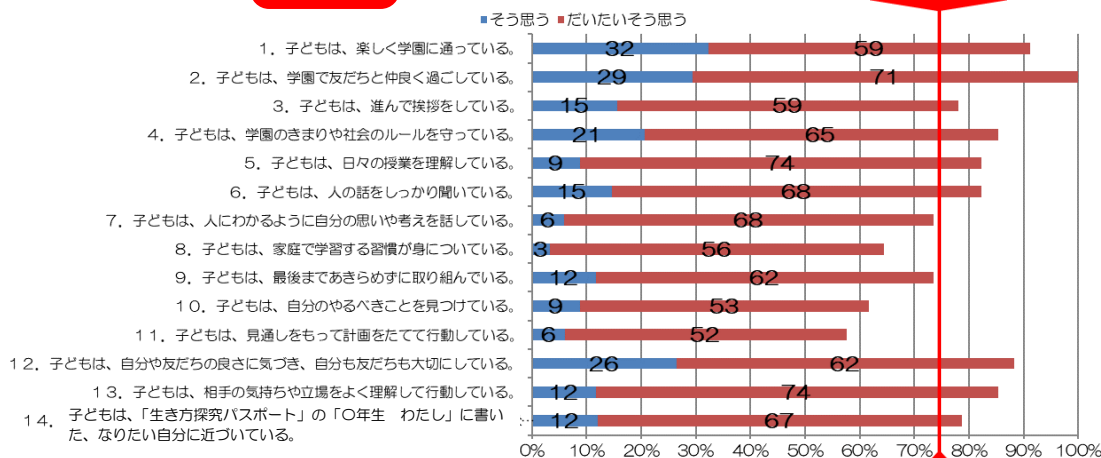
保護者

適合度



教職員

適合度



《結果の

見方について》

- ・学園生は一人一台配付されているGIGA端末を活用し、アンケートフォームにアクセスして回答しました。保護者の皆様にはお持ちの端末で学園生同様、回答していただきました。
- ・肯定的な回答のみ(横棒グラフの左から「そう思う」「だいたいそう思う」の順)をグラフ化し、75%を達成の基準としています。

《結果をもとにした考察》

- ・〈設問5〉学園生全体では、前期に大きくポイントが増加しましたが、後期も同様に高い水準を保っている状況です。学園生主体の授業改善の成果が見られます。
- ・学園生同士の対話、協働的な学びによって、自分の学びとして意識できるようになってきていると考えられます。
- ・〈設問11〉これまで基準ラインを下回っていた項目ですが、後期アンケートで学園生全体の数値が基準ラインを超えました。凌風コンパスや週予定表など、書き込んで活用することで自分の予定を見える化し、見通しをもって計画立てて生活できるようになったと感じる学園生が増えたと考えられます。長期的な視点で、この力を養っていく必要があります。
- ・学園生と比較し、保護者、教職員はまだ課題があると見ていることが伺えます。もっとできるはずだ、という大人の視点と、子どもたち自身ができたという思いをもっているという今回の結果から見て取れる視点を鑑みて、来年度の取組につなげていきたいと思ひます。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力をいただきありがとうございました。今回の結果から、学園生に今後もつけていってほしい力として「見通しをもつ、計画立てて行動する」ことを挙げましたが、この力は、単に学習に関わるもののみならず、先を見通したり、周りの状況・人の思いを考えたりする「想像力」、あきらめずやり続ける「粘り強さ」、正しいと思う判断・行動をとろうとする「自己指導能力」を身に付けることとも密接な関わりがあると考えます。「学習と生活」全体を通して育む資質・能力として、家庭・学校・地域が同じ目標をもってこれらの力を伸ばしていけるよう、次年度もご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。